

北秋田市
まち・ひと・しごと創生
総合戦略
(市民提言版)

平成27年10月

北 秋 田 市

北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（市民提言版）は、北秋田市総合戦略会議での委員の発言及びパブリックコメントで出された意見や提言等を、基本目標ごとに整理したものです。

基本目標 1 産業振興による仕事づくり

1-① 農業、畜産業の振興

【担い手の確保、後継者の育成について】

- ◎本市の基幹産業である農業の担い手の減少を阻止する。農業の六次産業化を成功させ、魅力ある産業として若者をひきつけるために、後継者となる若者が入ってくるまで援助を続ける。

【北秋田市ブランドの確立について】

- ◎実際に今北秋田市ブランドと言えるものがあるのか。あるなら具体的に示した方が良い。(大館では「枝豆のまち大館」としているように。)
- ◎重点奨励品目については具体的に記載した方が、市民の方が見てわかると思う。"
- ◎一つの名前で売り出すことは大事で、一本の旗を掲げてブランドを出せると良いのではないか。
- ◎ブランド化には、生産体制をしっかりとしないといけない。農業・畜産の基盤が重要になる。
- ◎高くても良いものを、というのが今の時代だと思う。地産地消のような観点でも、子どもたちを守るためにも、低農薬のものなど、北秋田市のブランドとして売り出すことも大事ではないか。
- ◎阿仁で小様きゅうりを作っており、東京には出せないが、少なくとも市内では名前が広がっている。そういったものを広めることも一つだと思う。一方で、北央農協の比内地鶏は更に外に出せると思うので、トータルで考えて、生産量に見合った戦略を考えていくことが必要。

1-④ 観光・レクリエーションの振興

【環境整備について】

- ◎団塊の世代が旅行で来ている方も多いが、駅が階段なので車いすの人は乗りたい駅で乗れず、降りたい駅に降りられない状況となっている。交通機関も含め、エレベーターを設置してほしい。
- ◎鷹巣には素晴らしい競技場、プールがセットになったものがあるが、宿泊施設が高いので、どこの大学も合宿にきていないとのこと。市でも助成して何とか勧誘をしてほしい。
- ◎森吉山荘までの左側の溪流がきれいで、あそこを整備して奥入瀬のように歩ければ良い。見るだけでなく、自分の足で感じたいということなので、歩道を作ってやれば良い場所になる。

【歴史・文化を活用した観光の推進について】

◎観光メニューの開発にぜひ「胡桃館遺跡」を入れてほしい。

- ①今年、胡桃館遺跡が埋もれた十和田噴火（915年）から今年で1100年というタイミングである。
- ②その時の大災害の様子を物語として語り継いだといわれる「八郎太郎伝説」の存在は、3.11を経験したこの時代に、十和田噴火とそれに伴って発生したシラス洪水という大災害に遭遇し復旧に挑戦した人々の姿と重なる。
- ③今は消失したが、小ケ田の埋没家屋の記録もあるし（菅江真澄、平田篤胤、長崎七左衛門等）、伝説もある。ゆくゆくは資料館を作るという目標を持ちつつ、シンポジウムを開催するなどして、「胡桃館遺跡」の名乗りを上げる。これは北秋田市にしか出来ない。
- ④日本のポンペイともいわれる胡桃館遺跡に謎に魅力を感じ、解明ないしは知りたいと思っている人がたくさんいる。地学的分野から国語、民俗学的分野まで幅広い人たちが集まることができる。世界遺産を目指す全縄文遺跡で協力して、訪問した所や日時などが記録されるカードのようなものを作ったら楽しいと思う。1000円ぐらいだと買って回りたいと思う人がいると思う。

1-⑤ 工業の振興

【雇用ミスマッチの解消に向けたキャリア教育について】

- ◎市内又は通勤可能な範囲の市町村にある職場の見学、仕事の体験の機会を増やす必要がある。
- ◎年代に応じた「職場教育」のカリキュラムの作成と実践計画を作成する。（自分の身体、性格、諸能力、時の社会状況、家庭状況等から自身の職業選択が出来る能力を養う職業教育は二十数年を要するといわれるように、保育所から大学まで必要な教育とされている。）

基本目標2 移住定住対策

2-① 移住定住の促進

【Uターン促進に向けた取組について】

- ◎若者にとっては遊び場や人との交流が大事であり、それと同時に親が楽しく生きているかも影響が大きい。親がつらく生きていれば帰りたくないと思うので、シルバー世代がこの土地でも楽しく生きられることを見せなければいけない。
- ◎大学卒業後に就職して5, 6年すると都会に嫌気がさしてきて田舎に暮らしたいと思う30代前の人たちもいるので、このような人たちが何人も来られるようなシステムが必要である。
- ◎職場の良さ、地域の良さを気づかせるのも高齢者の役割ではないか。高齢者が次世代の子どもを支援する、育てるための活動の場を広げることも良いのではないか。パークゴルフやグランドゴルフに行くことよりも、未来の子どもを育てる、職場を支えるような形になるよう行政が支援してほしい。

【移住ターゲットの設定について】

- ◎単に移住者を募集するではなく、もっと限定しても良い。例えば、同性愛者や子ども2人の家庭など、極端な限定方法での呼びかけも必要ではないか。対象者は自分が呼ばれた気になってくる。対象を広げすぎると他でも募集しているので埋もれてしまうと思う。田舎暮らしをしたい人は多いので、少しどころかものすごく対象を絞った方が確実に来る。

【移住者に対する地域の窓口について】

- ◎移住定住は、担当者を決めて対応した方が良い。移住する時の相手の気持ちを考えると、やはり人だと思う。例えば、退職した方や地域の世話をされている人をサポーターとして頼み、地域ごとに世話をしてくれる人を確保して、どこの地域でも移住者をつながるようにできればよい。

基本目標3 少子化対策

3-① 安心して結婚・出産・子育てできる環境の充実

【環境づくりについて】

- ◎若者の出会いの場を頻繁に作る。(リーダーの育成、自主会合、レクリエーション、研修、奉仕活動、地域行事への参加等)
- ◎結婚を経済的に援助する。(祝い金、積極的に紹介する)
- ◎出産・子育てを経済的に援助する。(祝い金、育児手当、出産費用の助成、産休期間の延長、保育園の整備等)

【子育てと仕事の両立支援について】

- ◎働く女性の職場が子育てに対してもっと休みを取りやすいようにする。既存の職場で働いている人が休みを取りやすい、子育てしやすい環境、職場ではサポートする団塊の世代、ボランティアが有料ボランティアともなるようにすること、女性の視点が大事。
- ◎お母さんが子どものために具合が悪くなって病院がいけなければいけない時に、地区のおばあちゃんのようにサポートできる仕組みがあればと感じる。
- ◎サポートしてくれるような保育経験者に登録してもらい、代理おばあちゃんとしてお願いすると良いと思う。
- ◎各地域にわんぱあくのような預かれる施設があれば良い。子育て支援は社会全体で、職場の意識改革も必要と気づいてもらい、内容を深くしてもらいたい。
- ◎お母さんが仕事を休みやすい職場となるように、市として後押しできるような体制になれば良い。

【専業主婦に対する支援について】

- ◎出産・子育ての施策は、共働きの夫婦が前提なので、専業主婦を支援するものが無いと感じる。

基本目標 4 新たな地域社会の形成

4-① 地域コミュニティの推進・地域自治の体制確立

【地域コミュニティの核について】

- ◎旧自治体のつながりは結構あり、それぞれで数千人の人口はいるので、夫々の地区での拠点を考えて、そこを生活の中心として守っていき、周辺集落とのネットワークを作ることが必要。
- ◎小規模な学校を地域の核として機能させるかを考えていかなければならない。学校があつてお店があつて市役所などがあつて、それで生活が完結できる。子どもたちも日常的にそこにいる、というふうに定めていくことが必要。
- ◎人数が少ないから仕方ない点もあるが、子供が主体の地域の行事になれると、ふるさとの思いも強くなると感じる。
- ◎子どもの頃に故郷で楽しく遊んで思い出が残っていて、故郷に誇りを持っているかどうか大事になる。

【自治会、子ども会等の統合について】

- ◎私の集落も3世帯程度なので、自治会を合体させることが可能であれば良い。
- ◎1人、2人しかいない子ども会もあるので、小学校単位にすること等も良いのではないかと。行政として支援をしてほしい。

4-③ 雪対策の充実

【民間の除雪体制の強化について】

- ◎民間は雪対策の機器購入も財政的に苦しい。民間企業に対しても何か支援をいただければ、不安感や不信感なども緩和されるのではないかと。

【冬期間の移住について】

- ◎過疎・限界集落から中心部に移住していただくことも重要ではないかと。数件の限界集落を中心部にもってくることや、冬期居住を進めることが有効なのではないかと。

【組織体制について】

- ◎この地方の特色をふまえて、雪対策を考える部署を立ち上げたらどうか。いろいろな研究機関もあるし、ボランティアの力も借りて真正面から取り組んだらどうか。

4-④ 地域防災体制の充実

【災害に関する情報提供の在り方について】

- ◎阿仁地区は防災無線が各家についているが事業所にはついていない。日中には事業所にいる人が多いので、購入でも良いので検討してほしい。
- ◎防災無線はよく故障するし、場所や風の方向によっては聞こえない。広報車の声も現在の気密性の高い住宅の中では聞こえない。イベントの告知や地域の話題など多目的に使えるコミュニティ FM の設置を希望する。
- ◎県内の各市でも導入が進んでいる防災ラジオ、コミュニティ FM の設置を検討すべきではないか。
- ◎県内にある「きりたんぼFM」や「花火FM」のようなものを考えるのもよいと思う。普段はイベントの宣伝など地域のことを伝え、有事の際は防災無線のような役割を果たすようなコミュニティ FM があればよい。

【自主防災組織、防災訓練について】

- ◎防災組織支援について、自治会単位のみでなく、事業所単位でも防災組織が取れるように考えてほしい。
- ◎災害時に訓練成果が生かされていないことも多いので、防災訓練においては地域の実情に合った具体的な訓練を望む。

4-⑥ 住環境の整備

【シェアハウス、グループホームについて】

- ◎一人暮らしの高齢者も多く、空き家も増えているので、普通のシェアハウスでなく、民家のシェアハウスとして寄合できれば良い。生活費も安くなるし、趣味も共有できるのではないか。
- ◎（シェアハウスは、）特別な設備等はなく、ただ生活する空間があれば良い。この地域は、車が必要だが、何人か運転できる方がいて、元気で助け合っていける程度でよいと思う。本当に動けなくなった時に施設等に行く前の準備段階として、自分で自分を鍛えていくことも必要。
- ◎民家を改築してみんなで住めるようなグループホームが地域でできると良いのではないか。
- ◎20代・30代の子育て世代や独身の女性は手仕事を習いたいという人が多い。古民家のおばあちゃんと一緒に住んでみたい人もかなり多いのではないか。